

1. 新庁舎建設にかかわる費用の総額と維持費は

役場新庁舎は供用開始から1年が経過した。

2018年7月から始まった新庁舎建設に伴う一連の工事は、旧庁舎解体工事も終了し現在跡地の整備が進められている。

新庁舎は省エネ技術を駆使した日本初のZEB庁舎であり、また災害に強い構造で、役場とは思えないモダンな建物という声もあるが、一方でこの新庁舎建設には総額でいくらかったのだろうという疑問の声がある。

新庁舎整備の費用に関しては、2016年度に開催されたまちづくり町民集会で、配布された資料に建設事業費として24億5千万円、さらに2018年9月発行の広報かいせいでは、新庁舎の建設工事がはじまりましたという記事の中で入札結果の概要として契約金額22億8千204万円と掲載され、これらが町民に明示されている。

しかし町民プールの解体、周辺整備や庁舎内の備品購入、旧庁舎の解体工など新庁舎建設に関連したトータルの事業費は町民に対し明確に示されていない状況にある。

そこで新庁舎整備事業が終了を迎える現在、新庁舎建設に関連する一連の事業費がいくらなのか、また今後の維持費についてランニングコストと想定される修繕費などについて問う。